

## 第1号議案

# 令和元年度 活動報告

### ●はじめに

コーダイジョイフルゲームズ・コーダイフェスタの2大イベントは成功裏に終わり、関係者の皆さんに感謝申し上げます。また、クラス別の修了式は十分な検討と準備をしたこともあり、殆どのクラスで工夫を凝らした式典が計画されました。OKALS-V運動も浸透しつつあり効果が出てきました。

超高齢化社会の進展に伴い、コーダイの社会に果たす役割は益々大きくなってきます。大阪府民・日本のために、さらに活動を深めたいと考えています。コーダイグループとして対処していく所存です。

2月下旬より新型コロナウイルス感染拡大が報じられ、止む無く修了式、成果発表会、修学旅行を中止しました。断腸の思いです。

### ●基調報告

1. 入学式は2,200名以上の参加者で大阪国際会議場で実施しました。上野千鶴子先生の講演は好評でした。修了式は昨年同様、各クラスで行う予定でしたが新型コロナウイルス感染防止の為、止む無く中止しました。コーダイは67科目、2,800名の受講生を擁する大きな団体になりました。カレッジを含めたコーダイグループとしては3,400名超となっています。大阪府民に対する影響は大きなものとなってきました。
2. コーダイジョイフルゲームズを10月11日大阪市立中央体育館で、コーダイフェスタを11月28日に豊中市立芸術文化センターで実施しました。ジョイフルで2,000人、フェスタで2,800人以上の参加があり、大いに賑わいました。
3. 昨年に引き続き、校友会フェスタを実施しました。また、「修了後の活動の場」で全クラス説明と勧誘を行いました。受講生の関心の低さには困惑しました。受講生の最低10%の入会を期待したいものです。
4. 南三陸町と住民との話し合いの場が実現しました。今年は「学習」を通して交流を促進しました。養父市との提携促進並びに岡山、愛媛、熊本の被災地の物産展も盛況でした。
5. 子どものための科学フェスティバル(第4回「大阪科学フェスティバル」)は1,500名以上の人達が集まり、各ブースとも多忙を極めました。
6. BSC部門ではSA認定証の交付を行い、コーダイ・カレッジ合わせて133名が取得されました。ボラバス、DDS活動、KOUDAI AWARDの顕彰とボランティア活動も形になってきつつあります。

7. ファン部を始め関係者の活動により、寄附金も増加しつつあります。子ども支援、まちづくり、被災地復興支援、大阪文化の保存伝承、福祉介護支援、社会参加団体支援等、コーダイが果たすべき任務は多岐に亘っています。
8. 広報部はパブリシティ活動に力を入れ、マスコミもコーダイを取り上げる機会が増加しています。NHKの取材とオンエアーは特に顕著なことでした。
9. 残念なことですが2019年6月23日(日)に盗難に合い、翌日24日(月)に488,860円が無くなっていました。すぐ大阪府東警察署に連絡し、当日2人の担当官が来校しました。実況見分の後、徹底的に捜査するよう要請しましたが、未だに犯人は見つかっておりません。事件以来お金の取り扱いには十分に留意しさらに、事務所内にもカメラを2台入れ、金庫も新しく購入し対策しています。事故扱いとして処理したくご理解をお願いします。

## ●教育部門

受講生2,800名(被災受講生1名を含む)で講座をスタートいたしました。

67科目と昨年より2科目増となり、教務部の「メンバー」で現場に根差した活動を実践しました。CD連絡会は年に4回開催して実態に即した運営をしました。教務委員会は教務主任を各曜日から2名、計10名を選出してその役割を明確にした上で、再徹底すると共に内容の充実を図りました。また、曜日CD会議を通じCDとの意思疎通を図り、迅速な対応で信頼を得ると共に充実・強化して運営いたしました。曜日教務部長は各教室に出向き、現場・現物・スピード主義に徹し、受講生、CD、講師の生の声をタイムリーに吸い上げ、PDCAサイクルを的確に回しました。

1. 教育会館、福社会館、住之江公園、森ノ宮ホールの各教室担当を決めて巡回し、きめ細かにフォローしました。
2. 即断即決、ディリー/ウィークリー/マンスリーで課題解決を実施しました。
3. CDおよびスタッフ、人材の発掘・育成は年間を通じ教育部門独自、総合企画部門と連携し継続的に進めました。更に、CDのOB名簿作成を通して継続して人材を発掘いたしました。
4. クラスミーティングの内容・進め方を見直すと共に良い事例の水平展開を図りました。また、コーダイ白熱教室につきましては、コーダイカフェと名称を改め、内容の改善及び充実を図りました。
5. 学習事業推進部はスポーツ交流大会をコーダイジョイフルゲームズに、高大祭はコーダイフェスタへ名称を改めました。主要行事には教育部門のメンバーが顧問となり、アドバイザー制度も継続して運営いたしました。
6. 校友会とコーダイは車の両輪との認識を強く持ち、コーダイ行事はもとより校友会との共催行事およびDDS(同期同窓会)の運営などを通じ連携を強化しました。

## <教務部>

1. 専攻科目は 47 科目から 52 科目に増設しました。講座の午前は講義の充実、午後はクラスミーティングの運営を見直し、講義の振り返り学習を始め、本音の議論ができるよう楽しい雰囲気づくりを目指し、一年間を通じて良い仲間づくりを強力に展開いたしました。校外学習を併用し、社会への参加活動についても活動事例を水平展開し授業を運営しました。
2. コーダイカフェは名称を改めると同時に内容の改善を進めました。一部で見られる発表会スタイルから討論スタイルへ進化させました。  
①発信力②信頼力③想像力の3力が学習できる、身につくような授業スタイルにしました。
3. 講師交流会は全科目の講師が出席頂けるように実施方法を抜本的に見直し、1回開催しました。
4. 各クラスの委員長との連携を深め、クラス運営が円滑に推進できるように本年度から実施した全クラス「委員長会議」を継続して開催しました。
5. 昨年に続き「曜日別合同オリエンテーション」を実施しました。コーダイとしての重要施策（特別教材の勉強会・振り返りアンケート実施の目的・社会への参加活動他）は、受講生に直接説明し再徹底を図りました。

## <SA・実践研究>

講座 15 科目（シルバーアドバイザー SA 養成講座 3 科を含む）間で、社会への参加活動に対して実際の活動事例及び企画等を紹介する交流を行い、水平展開を図りました。「学習としての社会への参加活動」の認識を深め、在校中・修了後の地域での社会参加活動へのきっかけ作りを目指して実践活動を行いました。社会への参加活動の実践を継続的に発展させるため、BSC 部門を始めとして大阪区民カレッジ・大阪府民カレッジ・校友会及び同窓会、その他コーダイ関連団体及び地域社会との情報交換や活動の交流を強化しました。

## <学習事業推進部>

1. コーダイの理念・方針に沿い、受講生のニーズを取り入れて「学習する」「仲間づくり」「健康づくり」の 3 本柱を基本に置いて、受講生が楽しめる遠足、コーダイジョイフルゲームズ、コーダイフェスタ等を念頭に学習事業を推進いたしました。
2. コーダイジョイフルゲームズ及びコーダイフェスタを最重点に捉え、推進責任者として教育部門のメンバーが専任体制で運営し、アドバイザー制度も継続しました。
3. これらの推進母体として、運営体制は学習事業実行委員会と各行事実行委員会を一元化し、昨年と同様に早期に立ち上げて運営しました。
4. コーダイグループとしては受講生を主体として、校友会、大阪区民・大阪府民カレッジと一体となった体制を構築しました。
5. クラブ活動については、受講生の自主性を尊重し「この指とまれ方式」を継続すると共に、受講生が活動しやすいように早期に立ち上げました。また、複数年度継続して取り組むクラブは、年度早々に立ち上げることができるよういたしました。

## <校友会連絡部>

校友会フェスタを本年も実施したところ142名の参加で、予定の130名をオーバーしました。しかし、増員分のオードブルとビールの不足で不評をかった点と騒がしくて、本来の校友会のアピール、入会案内が充分できなかつたことは、次年度の検討課題として残りました。

## <修了式>

新型コロナウイルス感染防止のため、修了式を中止しました。

## <修学旅行>

新型コロナウイルス感染防止のため、修学旅行を中止しました。

## <クラブ活動>

本年度のクラブ立上げ数は、昨年とほぼ同じ27組の登録がありました。その内2割が新しく出来たクラブ活動、8割が昨年度と同じクラブです。今後はもっと新しいクラブが立ち上がる事を期待します。

### 2019年度曜日別クラブ活動一覧表

#### ◆月曜日

クラブ名	代表者科目名
1. 校歌をうたう会	身の回りに関する法律を易しく学ぶ科
2. 日本文学愛好会	源氏物語の面白さを学ぶ科
3. 史跡めぐり部	日本文学の良さを楽しむ科
4. スマホ iPhone クラブ	日本文学の良さを楽しむ科
5. ハーモニカでも吹こう会	音楽を楽しむ科
6. 高大写楽会	歴史学中世科
7. 高大朋映詩吟クラブ	日本文学の良さを楽しむ科
8. 初級卓球クラブ	音楽を楽しむ科
9. シャンソンクラブ	音楽を楽しむ科
10. Mondays English Club	英会話を楽しむ科・月曜コース
11. 国際麻将倶楽部	基礎から学ぶ役立つ中国語科

#### ◆火曜日

1. みんなのコーラスクラブ	未来への先端科学技術を楽しく学ぶ科
2. Free Conversation Club	英会話を楽しむ科・火曜コース
3. 絵画を楽しむ会	基礎から学ぶ美術科

#### ◆水曜日

1. みんなでオカリナを楽しむ会	文芸を楽しく学ぶ科
2. マジック同好会	自然文化を楽しく学ぶ科
3. ヨガクラブ	自然文化を楽しく学ぶ科
4. 南京玉すだれクラブ	ボイストレーニングを楽しむ科・水曜コース

5. 歌体操クラブ 男と女のおしゃれライフ科

◆木曜日

1. 高大卓球クラブ 日本の起源と文化を知る科  
2. 歴史街道散歩クラブ 日本の起源と文化を知る科  
3. 朗読クラブ 朗読を楽しむ科  
4. 美術館めぐりクラブ 美の世界と美術散歩科

◆金曜日

1. ものづくり研究会 科学を学びものづくりを楽しむ科  
2. 高大ボウリングクラブ 自然文化を楽しむ科  
3. 健康クラブ 健康長寿を楽しく学ぶ科  
4. 社交ダンス フランスの魅力と初めてのフランス語を楽しむ科

●事業部門

<事業企画部>

1. 文化庁助成金事業  
計画通り実施、親子共々好評裏に終了し、コーダイフェスタにて成果発表いたしました。
2. 養父市学習連携事業  
養父市との連携を図るため、連絡会議・担当者会議を実施しました。  
養父市においては担当として、養父市産業環境部部長 鶴田氏を指名頂き、教科の1科目で連携、ジョイフルゲームズにおいては、養父市特産品販売を実施し好評を得ました。

<イベント部>

1. いずみホール音楽会は547名が来場、初めての試みとして演奏者、来場者との合唱が会場の一体感を深め、楽しめたと好評を得ました。
2. 歴史博物館は3年ぶりに「雅楽・舞楽のひととき」を講演、大阪の伝統文化を堪能して頂きました。
3. 救命救急講習会・特殊詐欺対策講習会・うんちく講座は例年通り実施しました。
4. 第9回大阪マラソンに640名、第39回大阪国際女子マラソンに240名の受講生がボランティアとして参加活動をしました。
5. 新規として大人のメイク教室を午前・午後開催し、計40名参加で好評でした。

<被災地支援部>

1. 東日本被災地支援事業  
2019年8月26日～28日の日程で行いました。

宮城県南三陸町中心に支援方法を切り替え、南三陸社会福祉協議会の協力を得て、南三陸町住民 44 名、当方 32 名の参加で「わたしの生き甲斐」をテーマに交流、発表し合い有意義な時間を持ってました。

また、南三陸町への義援金授与・復興状況の視察研修は例年通り実施しました。

## ●情報管理部門

### <教務事務部>

1. 受講生 2,800 人の集計管理と受講生台帳と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書、皆勤証書の発行を行いました。
2. クラスディレクターの交通費と講師の謝金を管理システムにて円滑に運営しました。

### <システム部>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生への合格通知の発送、入金管理にて受講生を決定後、入学案内などを発送して入学準備の体制づくりを行いました。
2. 募集申し込みはホームページの申し込みシステムを導入し、約 1,000 人の利用者がありました。

### <子ども事業推進部>

1. 「法円坂子どもプラザ」「科学実験とモノ作り教室」を 2 クラス 80 人体制で年 8 回開催しました。
2. 第 4 回「大阪科学フェスティバル」は天王寺区民センターで、約 1,500 人の入場者で開催しました。
3. 「パソコンお絵かき教室」は近隣小学校・幼稚園を中心に 8 回開催しました。

### <ホームページ部>

1. 内容の充実とビジュアル化、告知、報告のスピードアップに努めました。
2. 募集情報、イベント情報をリアルタイムで更新しました。
3. クラスブログは 22 件が立ち上がり HP にリンクしました。
4. メールマガジンは毎月発信して 700 件以上の読者登録がありました。

## ●BSC 部門

1. SA 養成講座修了生のシルバーアドバイザー大阪府知事認定証取得業務を遂行、10 月に認定証授与式を開催しました。
2. ボラバス（社会貢献バスツアー）を企画し、約 50 名（CD、受講生）が参加し社会貢献活動をされている団体を訪問、見学、また、実験学習も行いました。
3. 新たに社会参加活動を企画されている 16 件のグループから『DDS』活動申請があり、2 月に活動発表会を開催しました。
4. 長年に亘り社会貢献活動をされている 13 件の団体（個人）から『KOUDAI AWARD』の応募があり、11 月に発表会を開催し、合わせて 5 名の方が表彰されました。

5. 修了後の活動の場として、校友会での社会参加活動の実績披露、入会案内を行いました。

## ●総合企画部門

戦略部、教科研究部及び S プロジェクトを担当する総合企画部門として、組織改訂を行いました。

戦略部の使命はコーダイの 5 年先、10 年先を見据え、時代や環境の変化を先取りし、生涯学習の将来の在り方を探り、魅力あるコーダイを創造するための戦略的な活動目標の立案と推進を行う事であると考えています。

教科研究部の使命は“充実した学び、学習事業の提供”のために「わくわく・ドキドキするカリキュラム開発と魅力的な講師の発掘」を図り、受講生のニーズに応える事であると認識しています。

S プロジェクトは特命事項への対応、特にサテライト構想の推進です。

各部の活動実績を次に報告します。

### <戦略部>

1. 「関西および首都圏シニアカレッジ交流会」について、令和元年 7 月 12 日に交流会を徳島で開催しました。特に初めて関西圏と首都圏との交流を実施しました。
2. 「OKALS-V」(ボランティアに支えられたコーダイの高度学習システム)の浸透を図るために、コーダイの独自の学習システムの基本的な考え方の理解と運営手法を校内外への周知活動を展開しました。
3. コーダイ、大阪区民カレッジ、大阪府民カレッジの学習事業や財務基盤の強化及び人的な充実を図る上でのコーダイグループ化構想について検討しました。
4. 「特別教材・高齢者が動けば社会が変わる」の狙いを全受講生に理解してもらうために、コーダイの社会参加活動と連動し、特別教材を活用した特別教材勉強会を実施しました。その効果として DDS(同期同窓会)では活発な活動展開がなされました。また、その目的に合った活動を行っている外部団体も含めて KOUDAI AWARD で表彰しました。

### <教科研究部>

1. 当年度の前半は教科研究部の体制が人的に十分に整いませんでしたが、後半は経験・実績のある CD の協力を得て、講座構築への取り組みを行う事ができました。
2. 「先駆的なカリキュラム」の構築、「魅力ある講師」の発掘を進めるために、講座改革委員会を開催しました。その事前の作業として、講座 12 分野について担当教科研究部長及び CD により分野別分科会を開き、各分野・各科目にかかる課題や対策について、検討した結果を講座改革委員会に図り、短中期計画の取りまとめを行っています。
3. 講座の分野は従来より 12 分野 67 科目ですが、講座の内容との整合性に齟齬が見られる事から、分野名の改訂と科目の整理を行いました。

4. 開講講座は昨年と同数 67 科目ですが、新規科目は 1 科目、科名と内容がわかりにくい 6 科目について科名改称を行いました。
5. コーダイ開校 11 年目に入り、現在の学びが高齢社会の生涯学習のあり方にとって相応しいのかどうかを念頭に、多様なニーズに対応すべく、1 年間コースではない数ヶ月、あるいは数回の短期講座の実施について、テーマや推進に向けての方策などを検討しました。
6. 「市民公開講座」を 6 回実施し全般的に好評でした。歴史分野の公開講座は要望もあり多く開催しましたが、大阪府として初めて世界遺産が登録されたのを機に、「百舌鳥・古市古墳群の魅力」という旬な公開講座を実施、受講生以外の一般市民の聴講がありました。  
また、コーダイが重視するボランティア活動の意義についての講座やイタリアの暮らしと食文化をテーマにした講座を校外で実施、楽しい講座も提供できました。
7. 魅力ある講師の発掘については、積極的に外部の講演会や公開講座への参加を行う事が重要と考えていますが、十分な活動ができている状況ではありません。更なる行動を行う事が最大の課題です。
8. 例年実施している「コーダイアンケート」に関しては、大阪万博プロジェクト委員会を過年度 2 回実施し「健康寿命に関するコーダイ受講生の意識調査」とドッキングして行いました。その結果は受講生のニーズの把握や課題を把握しコーダイの運営に活用するとともに、コーダイの今後のあり方を検討する材料として位置づけています。結果については次年度に報告をしたいと考えています。

### <Sプロジェクト>

コーダイの本校がある教育会館の A 棟については、旧耐震の建物です。将来起こるだろうといわれている南海・東南海地震の発生により、倒壊の恐れが考えられます。そのためにサテライト構想に向けての活動として、新たな教室を確保する必要があります。

現在は数講座について暫定的に大阪市内の各所に教室を設けていますが、運営的に考えると極めて煩雑で無駄が生じてくると思われます。コーダイ関係の人脈や種々の団体・企業を通じて、適切な物件を紹介してもらうように依頼をし、情報活動を行っています。

### ●総務部門

2019 年度は 5 月 18 日(土)に第 11 回通常総会を開催し、承認を頂いたにもかかわらず、多額の未払金が判明し、6 月 10 日(月)に臨時総会をお願いし、会員の皆様に大変ご迷惑をおかけしました。

また、6 月 23 日(日)に事務所荒らしの盗難にあい、翌日(月)手提げ金庫から 488,860 円がなくなりました。すぐさま所轄の警察へ届出、捜査が始まりましたがいまだに捜査中とのことです。誠に申し訳ありませんでした。

事件後、現金出納の責任の明確化・経理マニュアルの作成及び防犯カメラ、大型耐火金庫、出納業務席の隔離等、諸施策を実行いたしました。

なお、紛失金の取り扱いについては第9回(1月24日)理事会において、経常外費用、雑損失で488,860円を計上することの承認を頂いております。

今後とも念には念を入れ、基本動作に忠実に経理業務を進めてまいります。

また、年度後半から新型コロナウイルス感染対策として、非接触型体温計、消毒液等の手配をしましたが、いまだに感染拡大が報じられているところであります。

#### <経理部>

2019年度に発生した盗難事件につきましては、深くお詫びを申し上げます。

手提げ金庫の収納場所は二重の鍵で作業しないと開錠できないようにしておりましたが、その場所をこじ開けられて手提げ金庫内の現金(6月24日(月)に銀行に預ける予定)を持ち去られました。いまだに犯人の検挙もなく誠に残念です。

その後は大型耐火金庫の設置及び企業総合保障保険(盗難保険)に加入しました。経理部全員で現金及び預金通帳の管理を今まで以上に充分注意を払っております。

また、現金支払を極力減らし振込にさせて頂くようにし、どうしても現金支払を希望される方には支払日、支払時間、支払場所等を指定して、極力事務所内に現金を保管しないシステムにしました。

#### <事務局>

- ・防災訓練についてはG20サミット首脳会議が6月28日～29日にかけて実施されたことから、避難場所への立ち入り禁止などの制約を受けることとなりました。次年度は地震・津波などの災害想定の下、各教室の地域環境に合った訓練並びに日常生活の上で、役に立つテキストの作成を考慮します。
- ・11月15日、教育会館の他のテナントさんと避難訓練を連携して合同で行いましたが、日常介添えの必要とされる方もおられることから、今後の課題解消に向け引き続き関連部門と調整していきます。
- ・受講環境の改善を図るべく教育会館に申し入れを行い、3階305号室と307号室を一つの部屋にするよう工事を行って頂きました。本年度授業開始時より最大70名の受講が可能な新305号を教室として利用しました。

### ●広報部・ファンド部

#### <広報誌>

広報誌「れいんぼー」は年4回「4,7,11,1月」をオールカラー・16頁にて発行。

27クラスのクラス紹介、社会への参加活動、ボランティア活動など受講生の活動報告を掲載し、受講生参加型の広報誌を推進。また、企業広告を4回掲載し経費削減に寄与。

#### <パブリシティ>

動画やコーデイ通信でCDや受講生のラジオ出演、新聞掲載等予告をアップ、出演要請を行ない、受講生等に毎月出演して頂いた結果、メディアとの関係が強化されました。

プレスリリースについては他部門に積極的に働きかけを行った結果、配信数を上げることが出来ましたが、掲載等は昨年並み、勉強会は未実施に終わりました。

#### <企業対応>

活動の結果、評価として各企業にコーダイの認知度を高めたが、賛助会員等の獲得は各企業の事情により目標には届きませんでした。

#### <ファンド部>

会費、寄附について各項目別に分析を行い、拡大に向けて具体的に動いた。

2019年度実績：正会員会費 525 千円 賛助会員会費 775 千円

賛助法人会員会費 150 千円 寄附 1,192 千円 総額 2,642 千円

### ●募集委員会

募集委員会の第1回を2019年4月18日に開催し本年3月24日まで13回開催しました。「2020年度受講生募集」に係る基本方針（募集要項）を設定した上で、募集開始日を2019年10月1日、締切りを12月6日午後3時までとしました。

講座改革委員会で検討された結果を踏まえ、新しい講座の開設や数科目について科名変更を行いました。募集人数については、大阪教育大学天王寺キャンパス及び大阪市北区の堂島ビルディングに新たな教室が確保できたことを踏まえ、人数の設定を行いました。募集の基本は次のとおりです。

\*高大を初めて受講される「優先入学制度」を訴求力に、新規受講者の勧奨に努めました。

\*年齢制限・居住制限に関わらず、自由に受講していただけるようにしました。

以下に主たる募集活動の内容を列記いたします。

1. 2020年度は本科52科目、SA養成3科目、実践研究部12科目の計67科目、2,955名の応募計画を立てました。新科目として「日本文学の魅力再発見科」を開講しました。さらに、カリキュラム内容などの充実と受講生のニーズに対応すべく、科目について科名変更を行い、継続受講が可能となるようにしました。
2. 募集案内は28頁冊子を1万8千部、8頁リーフレットを5万部印刷しました。28頁冊子は受講生に3部、電話などでの問合せ者に対して配布しました。校友会を中心としたグループにも配布し、新人獲得のための勧誘活動をお願いしました。8頁リーフレットは大阪府(递送便)を通して各市町村、並びに大阪市(递送便)、堺市の各区役所関係の公共施設への配架・配布を依頼しました。大阪市サービスカウンター3ヶ所、ピース大阪の地下鉄ラック5ヶ所に配架をしました。
3. 受講生募集の広報として、募集にかかる基本計画を大阪府に説明の上、大阪府の公報発表を9月上旬に実施していただくよう依頼いたしました。大阪府政だより、大阪市・堺市の各区役所の広報誌への掲載を依頼しました。
4. 大阪市立総合生涯学習センター発行の「いちょう並木」に9月から11月に3回募集、オープンキャンパス、講座説明会の案内広告また、チラシ発行及び地域情報紙、朝日・

読売新聞大阪版に講座説明会開催の案内広告、NHK ラジオに「講座説明会のお知らせ」を依頼してアナウンスして頂き、それらの反響により問合せや募集案内パンフレットの請求等があり対応をしました。

5. 大阪府・市の逡送便で各市町村、区役所の公共施設等に募集要項 8 頁リーフレットを配布して頂いていますが、各公共施設にお任せをしている現状です。募集案内書が配架棚になく催促ある等、対応が十分できていない面があります。次年度の課題として検討をしていきたいと考えています。
6. 応募者からのコーデイの講義が、どのようなものなのかを知りたいというニーズに対応して、語学関係科目のオープンキャンパスを福社会館で 2 日間行いました。初めての方が多数参観されました。
7. 講座説明会は本年度は延べ 9 回、教育会館、大阪市北区梅田、豊中、吹田、東大阪、枚方、堺の 7 会場で実施しました。東大阪市で初めて実施し、多くの参加者がありました。全体としては昨年度より参加者は増加しましたが、申込み率は低下しました。申し込みは非常に慎重で毎日発表する応募状況を見て決めたいという方が多い事が伺えます。
8. コーダイホームページによりコーデイ検索の閲覧数も大きく伸びています。一昨年度よりホームページでの申込み受付を行っており、本年度は 935 名と昨年度より大きく伸ばしております。今後は更に伸びるものと思われます。
9. 活動の結果として受講生数 2,874 人、昨年比 2.6%の増加、新人は 850 人、男女比 44.5% : 55.5%、平均年齢 70.6 歳でした。  
コーデイ開講 12 年目ですが、過去最大の受講生を 2020 年度お迎えすることになりました。

## ●コーデイ・なにわの宮会

コーデイなにわの宮会では受講生の意見、要望を聞くとともにコーデイの活動指針である OKALS-V を受講生に浸透すべく「理事長と語ろう、OKALS-V ってなに」を推し進め 2 年間で 67 科全科の訪問を終了しました。多くの意見を基に改善可能な所から着手しました。

5 月には全受講生を対象に「新入生歓迎会」を開催し、160 名の参加がありました。

コーデイジョイフルゲームズでは物産店を開催し、被災地の支援を行いました。

「れいんぼー」での誌上交流の場として、川柳の募集選句を行い 2019 年度の川柳大賞を発表しました。

台風 19 号被災地支援では長野県への義援金の贈呈を行いました。

## ●大阪万博プロジェクト実行委員会

2025年日本国際博覧会協会が2019年1月に発足、本部は大阪南港の大阪府咲洲庁舎内にあるプロジェクト委員会として、昨年6月及び本年年初に表敬訪問をし、現段階における協会の検討状況や日程について情報収集を行いました。

東京五輪が来年開催される事もあり、政府や財界がまだ万博まで手が回らない状況で、東京五輪が終了後、本格化するというのが現状です。

2017年度(平成29年)に実施した「健康寿命に対する高大受講生の意識調査」について、本年度も実施し受講生1,859名(全受講生の67.3%)から回答があり、その結果を受講生に報告いたしました。指導を頂いた大阪大学大学院大橋教授へ報告し、大阪府高齢介護室でプレゼンをいたしました。その資料は高齢介護室から万博誘致推進本部へ届けて頂いております。

## ●NPO法人大阪区民・大阪府民カレッジ

1. 2019年度大阪区民カレッジ(OKC)は中央校、北校、城東校、東成校、天王寺校、西校に加えてみなと校を開校し計7校、受講生310名。

大阪府民カレッジ(OFC)は東大阪校、ひらかた校、堺東校、富田林校、八尾校、大東・四條畷校、豊能校に加えて堺北野田校、池田校の2校を開校し計9校、受講生328名を受け入れ、地域密着カレッジは合計16校：受講生638名となりました。

2. 行政区分により大阪市内はOKCが、大阪府下はOFCが運営しますが、主旨は同じですので、協働して運営しております。
3. 地域カレッジの設立要請により、OFCは高槻・北摂校を設立しました。
4. OFCは新規立ち上げ校の知名度不足もあって、定員未達校もありまた、開校費用等、費用先行型となって収支はマイナスとなりました